

2023年度 霞が関政策提言ツアー 実施報告書

実施日：2024年3月1日(金)

意見交換：財務省(主計局)、こども家庭庁、厚生労働省、国土交通省

参加者：赤井ゼミ学生 20名、引率教員 1名 (赤井¹)



¹ 連絡先：赤井伸郎（大阪大学国際公共政策研究科教授）akai@osipp.osaka-u.ac.jp

目次

1. 政策提言ツアー企画の経緯.....	2
2. スケジュール.....	3
3. 写真.....	5
4. 学生感想・コメント.....	8
4.1 財務省でのプレゼン.....	8
4.2 こども家庭庁 成育局成育環境課 居場所づくり係でのプレゼン.....	14
4.3 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室でのプレゼン.....	18
4.4 国土交通省航空局 航空ネットワーク企画課 空港経営改革推進室でのプレゼン.....	23
4.5 今回の政策提言ツアー全体への感想および、実際の政策決定を行う担当者との意見交換の場（中央省庁、地方自治体、その他）やそのあり方についての意見・希望	26
4.6 阪大(東京) オフィスの印象.....	30
5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント.....	31

1. 政策提言ツアー企画の経緯

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が、2023 年度に執筆した論文において提言した政策に関して、実際に、その政策を所管する省庁に訪問し、提言を行うこととした。受賞した論文およびその他の班の論文は、水産庁（農林水産省）、総務省、国土交通省の政策にかかわるものであり、その政策担当者と議論する機会を持つことにした。本ツアーに御協力いただいた多くの皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

2. スケジュール

午前パート:2024年3月1日(金)9:40~12:00

中央合同庁舎4号館 4階 第2特別会議室(対面方式)

- (1) 大阪大学参加者
赤井教授、ゼミ生 21名
- (2) 財務省参加者
- 調査課対応者:八木参事官、大本補佐、神賀係長、林係員
(司会進行を大本補佐、ロジを調査6係が担当)
 - 予算係対応者

テーマ	対応者
① 2040年問題を見据えた介護士不足の解消	厚労6・7係 長久主査 厚労係 大槻補佐
② こどもの教育格差解消を目指して	こども家庭係 森田主査 厚労係 大槻補佐
③ 空港の経営改善に向けて	国交6係 春田主査

時間	場所	内容
9:20	財務省正門前	大阪大学一同集合→会場へ
9:40-10:20	中央合同庁舎 4号館4階 第2特別会議 室	プレゼンテーマ①介護班 (厚労6・7係 長久主査 厚労係 大槻補佐) <時間配分:挨拶5分+発表20分+質疑15分>
10:20-11:00		プレゼンテーマ②こども班 (こども家庭係 森田主査 厚労係 大槻補佐) <時間配分:挨拶5分+発表20分+質疑15分>
11:00-11:40		プレゼンテーマ③空港班(国交6係 春田主査) <時間配分:挨拶5分+発表20分+質疑15分>
11:40-12:00		八木参事官との意見交換 <時間配分:挨拶5分+説明5分+質疑10分>
12:30-13:00	財務省食堂	ランチ

* プレゼンテーマ①~③の後、八木参事官からゼミ生に対し日本の財政について簡単な説明を行った後、意見交換を実施。

午後パート:2024年3月1日(金)13:30-17:00

13:30-14:30 プレゼン@こども家庭庁成育局成育環境課・支援局家庭福祉課

場所:こども家庭庁内の会議室(霞が関ビルディング 21階)

14:45-15:45 プレゼン@厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室)

場所:厚生労働省内会議室

16:00-17:00 プレゼン@国土交通省 航空局 航空ネットワーク企画課 空港経営改革推進室

場所:国土交通省航空局 7階 A 会議室

3. 写真

財務省訪問〔午前〕と意見交換



参事官とともに



各省庁との意見交換会(午後)

こども家庭庁



厚生労働省



国土交通省



4. 学生感想・コメント

4.1 財務省でのプレゼン

財務省への政策提言での発表・議論（自分の班および、他の班）から感じたこと・学んだこと、財務省のハードの印象・財務省のソフトの印象（担当者）など

1. 今年度以前の論文発表でも政策提言をする際のスキームの一部を担う機関として、人材派遣会社を活用しているものもあったので、人材派遣会社の手数料の取りすぎやそれに伴う人材派遣会社を利用した事業所の業績悪化、また人材派遣会社から派遣された人材の離職率の高さなど、自分たちでは対策を考えるに至らなかった部分に指摘をいただいて非常に勉強になりました。空港班のコンセッションについてもコンセッションに利点だけがあるわけではなく、公的に管理されてる空港が赤字の空港ばかりになったり、自治体へ波及する利益が奪われてしまったりするという欠点があるというご指摘をいただき、来年度自分たちが論文執筆に取り組む際は欠点も加味した上で政策提言に制限を設けたりすることも必要なのではないかと感じました。
2. 財務省での発表・議論では、他の省庁での発表時に比べてあたり前ではあるが、費用対効果がかなり重視されていると感じた。他の事業・政策との兼ね合いを考慮しているであろう部分を垣間見ることができて、さすが日本の金庫の番人的役割を担う省庁だと感じた。また、八木財務省大臣官房参事官のお話を聞くことができたが、以前ゼミに矢野元財務次官が訪れた時のように更に踏み込んだ内容を（職務上厳しい部分は多いだろうが）聞ければよかったと少し思った。
3. 財務省の方の指摘のなかで「その政策にお金を使うべきなのか」という姿勢が通底して感じられた。国の財務を担う立場を考えれば当然なことなのだと思うが、言葉の節々から強くその思いが感じられた。私たちが本当に説得力ある提言をするためには、その視点のもとで、より綿密な提言が必要であると感じられた。また一方で、日本全体として人口減少・人手不足が進行する中で、本当にその分野に人とお金を割くことがよいことなのか、という大局的な視点も必要であることが実感された。これらの議論をする中で、財務省の人が真摯に日本の諸問題と財政状況について憂い、取り組んでおられることが実感できた。財務省というと、個人的には心理的な距離が遠く、イメージのしにくい省庁であったが、今回お話をすることでより具体的な印象を持てるようになった。
4. 財務省の政策提言でとても印象に残ったことはやはり予算のかかる政策立案は非常に厳しいということだ。むやみやたらに資金を投入するやり方は現在の日本財政では厳しいのはわかっていたが、これほど一つ一つの政策について議論するのはとても骨が

折れる仕事だなと感じた。さらに、自分たちの発表の中では人材派遣会社を使う理由を詰められた。国の既存の組織であるハローワークがあるのに、なぜ人材派遣会社にお金を払ってまでしないといけないのかという指摘は今まであまり出てこなかったので、既存の国の組織にも配慮しないとイケないと感じた。財務省のハード面はとても昔の学校のような作りに思えた。階段のレッドカーペットもあるが、少し薄汚れていた印象だった。廊下から見える風景も大都会にあるオフィスとかではなく、昔ながらの建物という印象があった。ソフト面は財務省は超エリートしか入れないというイメージがあって、働いている人たちはサイボーグかのように働いているのかと失礼ながら思っていたのだが、さまざまな人がいることに気づいた。特に政策提言ツアーに対応していた方々は学生に対しての優しさもあり、少し印象が変わった。

5. 財務省ならではの金銭の観点からコメントをいただき、これまでになかなか指摘をもらわなかった点なので、学びが深まりました。また、実際にお金の部分は難しいところはありながらも、自分たちの発表における問題意識や提言の内容について現実性や喫緊性があるという言葉を受けたことはとても嬉しく、印象に残っています。最後の財政についてのレクチャーでは、予定よりも大幅に短い時間でわかりやすく、全ての内容を網羅したプレゼンテーションをされていて、頭が切れるだけでなく、高いコミュニケーション力をも持ち合わせた優秀な方がたくさん働かれているんだらうなという印象を持ちました。
6. 参加せず。
7. この度はお忙しいところ貴重な機会を提供してくださり誠にありがとうございました。全班の発表を通して、財務省の方からのフィードバックは、政策の財務面を重点的に考えておられることを体感できました。もちろん少し考えればわかるような当たり前のことですが、自分自身が考えた政策に対してその政策は他のやり方でもっと費用を抑えつつ同様の効果が得られるのではないかとというフィードバックを受けたことは、とても印象に残りました。この考えは将来官僚にならなくても重要な考え方になるのではないかと思いますので、今回の貴重な機会で得た学びを今後にぜひ活かしたいです。
8. 介護分野での人手不足において、機能分化に着目し介護助手を導入するという提言をさせていただきます。「目的は良いとして、手段はどうか」「人手不足の日本で最も考えるべきは最小人数で対策を講じることなのではないか」といったご指摘はまさにおっしゃる通りだと感じましたし、論文が机上の空論にならないために非常に大切な視点をご教示いただきました。まずは既存のハローワークなど、政府のインフラを使って政策を考え、その上で新たな人員を投入することを検討する、というのは今後の論文執筆においても活かしていきたい学びです。実際の政策立案のための討論を、ほんの一部ですが体験できたことで今後の励みになりました。ありがとうございました。
9. 格差に直面したこどもが、実際に、大学入学や就職を果たしたとしても、継続性に難があるという現状は、非認知能力に着目して教育格差に取り組む大きな理由になると感

じました。また、議論の場を設けて横展開していくことは複合的なフォローだけでなく、支出の削減という観点からも必要だと感じました。フィードバックにおいて、提言に対して肯定的な意見をいただけて、1年間の努力が認められた気がして嬉しく感じました。今後も機会があれば、より多くの機関にヒアリングを行い、ネットワーク形成に資する提言ができればうれしいと感じました。

10. 一年間を使って完成した発表を、実際に日本で政策にかかわる方々にご覧いただいたことは、大変光栄です。また、フィードバックで頂いたコメントの中でも、政府がすでに公共で提供しているハローワークといった施設を差し置いて仲介料等が発生する民間業者やコンサル会社を組み込む必要があるのかといったお話や、生産年齢人口が減少して人手不足が避けられない現実がある以上、現職の職員を引き留めることに力を割くのもそうだが第一は少ない人数でも機能する組織づくりをし、人手が減少しても長期的に機能する介護現場を整備することではないかというお話は、まさにその通りであり、日本の現実と向き合って日々課題に取り組まれているからこそのご指摘だと感じました。
11. 1年間頑張って執筆した論文に対し良い評価いただけたことは、自信に繋がりました。また、達成感も得られました。特に、テーマ選びや政策提言に係る着眼点について褒めていただけたことから、やはり現状分析の緻密さと、政策提言パートにおける柔軟な発想力が赤井ゼミの強みなのだと感じました。また、私たちは資金面と人材面から実現可能性について考えていましたが、担当者の方々はそのことに加えて、国民からの印象についても考慮されていることに気づきました。この点は、学生の私たちには考えつかなかった観点です。そのため、来年度から政策提言パートを考える際には、国・ステークホルダー・国民の三者にとって受け入れられやすいものかどうかの意識をするべきだと感じました。
12. 学生の考えた政策提言のアイデアに対して共感していただき、また、たくさんのコメントやご指摘をいただけたことは一番印象的でした。空港のスペシャリストの方に提言をさせていただくということで少し恐縮していましたが、実際「予算編成に組み込めそう」というコメントをいただけて、一年間の取り組みに大きな意味を見出すことができたように感じました。また、「実現可能性」の重要性を身をもって実感した機会でもありました。複雑な要素が絡み合い、かつ重要な社会資本である空港だからこそ、実現可能性が高く、より効果が見込める政策に投資する必要がある。特に財務省が実際に予算の鍵を握る部署だからということもあると思われるが、政策提言を行う以上は、独自性や新規性だけでなく「実現可能性」へのフォーカスが非常に重要だと実感しました。
13. 財務省の方々が国家予算のバランスシートをこれ以上悪化させないために腐心されている様子が伝わってきました。特に印象に残っているのは、財政についてのお話の中で出た受益と負担の関係性についてです。フリーライダーをなるべく排除しつつ、受益者

が公正に負担をするというフェアな関係を作るためにはどうしたら良いかについて考えさせられるとても貴重なきっかけとなりました。

14. 財務省を訪れるのは、今年で3回目になりますが、そのたびに興味深いお話を伺うことが出来、非常に楽しく勉強になった場でした。日本の財政状況（借金）や受益と負担のバランスのお話などを伺うたびに、一国民として積極的に考えていかなければならないと思いました。政策提言の発表およびそれに対する議論においては、論文大会などとは違った、実務を行っている方々からの、どちらかと言えば現実的な意見を拝聴することが出来、自分達が目指していることを実現することの難しさを改めて感じることができました。
15. 3年間の政策提言ツアーを通じて、財務省は、政策に対してどれだけ予算を投じるかを管理する役割だけでなく、本来の政策目的を達成するためにあらゆる手段を考え、最も効率的・効果的な手段を精査する重要な役割を担っていることを学びました。財務省の担当者の方は、主計局の方ということもあり、自分たちの提言した政策に対して、目的がずれていないか、無駄がないか、より良い手段がないかをしっかりと指摘していただき（加えて、自分たちに、より、その問題について考えさせるような質問までしていただき）大変勉強になりました。
16. 実際の現場でも、各省から財務省の担当者へ政策提言のようなプレゼンをするときと知り驚いた。その中での視点（予算や今ある事業をどう生かすかなど）を今後の論文で重要視することでより良い論文になるのではと感じました。特に現行政策との兼ね合いについてはあまり触れられていなかったため、その点は、改善すべきであると感じました。また、財政についてのプレゼンを聞き、借金がかさみ日本の財政の先行きが不安定になる中で、改善は急務であると感じました。税収の伸びや支出の削減によりPB黒字化が期待できそうではあるが、人任せではなく、一人一人が今後の財政をどうしていくか意見を持つことが重要だと感じました。
17. 各省庁での発表を終えてから改めて考えてみると、財務省の方のコメントは、政策設計の視点が異なる気がしました。お金の振り方を管理するという財務省の役目からすると仕方がないこと、当然のこと、むしろ外部の意見を受け取るという意味では望ましいこととも言えるかもしれません。財務省と事業を管轄している省庁とで見ている方向や価値観が異なることが、良い方向に活かされることに期待したいです。
18. 同じ財務省と言っても、担当している課によって扱う分野が全く異なるところが他の省庁との違いなのかなと感じました。例えば国交省の予算担当であれば、業務自体は予算に関するもので財務省らしいですが、必要な知識は厚労省と変わらなかったりするので、かなりの知識量が求められる職場だと感じました。一方で、各省庁が持ってきた提言にどう予算をつけるかという観点で私たちの発表を聞いてくださったと聞き、同じ発表を財務省の方と国交省の方にするのは受け取られ方が全く違うのだろうと感じました。

19. 日本の財政状況について、多様なメディアなどの情報に惑わされず、財務省の方から直接真実をお聞きすることができて勉強になりました。特に、際限のない国債発行によりインフレなどが進み、国民生活に悪影響を及ぼすというサイクルを示してくださったことで、今日本が置かれている状況を簡潔に頭の中で整理することができました。ニュースなどをみていると、「円安が進んでいる」や「国の借金が多すぎる」など、一つの事象だけに気を取られてしまうことが多いですが、それぞれの事象がどう絡み合っているかという点を整理することができ、大変有意義な時間となりました。
20. 実際に主計局の職員の視点からのご質問をたくさんいただき、大変勉強になりました。具体的には、既存の政府のアセットではその政策は実行できないのかということであったり、人材派遣のスキームに対して、実際に政策の費用に見合った効果は出せるのかであったりなど鋭く、広範な視点から政策を捉えており、自らも社会人として来月からその考え方をしていきたいと強く感じました。財務省の担当の方の印象としては、国の金庫番という責任感を持ちつつも、時々ユーモアも交えてお話しくださり、親しみやすさを覚えました。貴重なお時間をいただきありがとうございました。

財務省食堂のランチについて。(阪大のいろいろな学食と比べて)。財務省職員の職場環境について感じたことも。

1. 毎日利用する客層が決まっている阪大の学食と同様、ご飯の量が調節できたり、一食の栄養バランスが整っていると感じました。また財務省の中でも非常に多くの部署に分かれており、私達が普段見て感じている事柄よりもかなり多くのことが財務省の中で行われているのだと感じました。
2. 食堂のランチについて、味は美味しいが量は女性にとっては少し多いという風を感じた。眠気を感じず午後からの業務に集中できるようにするためもう少し量を減らしてもよいのかなとも感じた。職場環境について、廊下は薄暗く、各部屋の様子はそれぞれのドアのみから見えるなど、あまりオープンな環境ではないなあと感じました。
3. 定食を頂いたが、しっかりとボリュームがあり、中高年の方のお腹には苦しいのではないかと感じました。安価で量が多く美味しかったため、私は十分に満足できた。雰囲気は庶民的で、「財務省食堂」という名前の強さのわりに親しみを感じました。財務省の建物は歴史ある様子で、歴史の重みを感じられました。しかし、周りを歩く人のほとんどがエリートであることをイメージすると、建物の無機質さも加わり、閉塞的な雰囲気も感じられました。
4. 財務省の食堂は阪大の食堂と似たような感じだった。しかし量やレパートリーの多さが財務省の方が多かったので、僕は財務省の食堂を気に入っています。職場環境は建物自体は古いと感じた。コーヒーなど販売してるところもあり意外とアットホームである一面も見ることができました。

5. 売り切れで一番食べてみたかった和定食が食べられなかったのが残念です。全体的に、価格帯はお手頃ですが、阪大の学食に比べると少し高いように感じました。職場環境については、やはり見かけた人のほとんどが男性だったので、女性が少ない環境なのかなという印象を持ちました。
6. 参加せず。
7. 阪大の学食よりもかなり安いという印象でした。やはり生協が間に入っていない分、利益がそのまま昼食を提供してくださっている団体に行くようになっていて低価格を実現できるのかなと考えました。阪大の学食ももう少し安く、もしくは同じ値段でももう少し豪華か美味しい学食を提供してほしいです！！！！！！
8. おいしかったです。実際に働かされている方々も利用されており、潜入した気分になって食時を取ることができました。昔の設備を生かしたフロアになっていて、財務省の歴史とこれまで働かれてきた方々の歴史を垣間見ることができる空間でした。
9. 現金のみの支払いの食券システムによって渋滞していたので、QR やクレジット決済ができればと感じた。料理の提供スピードはとても早く、とてもおいしい定食が安価で提供されているので、福利としては素晴らしいと感じた。
10. コストパフォーマンスも良く、美味しかったです。栄養バランスや、ご飯の量のオーダーも可能で、食の面からしっかり職員たちを支えられていると感じました。カードで食事がきるためかもしれませんが、食券を購入する場合には、現金のみしか利用できず、キャッシュレス決済など、もう少し効率化をしてほしいと感じました。
11. 当たり前のことかもしれませんが、大学の食堂とは異なり、どの方も急ぎ足で行動されていたように感じられました。そのため、食事をとられるスピードも早く感じました。メニューはどれも栄養バランスが整ったもので、非常に美味しかったです。
12. 財務省と阪大を比較するとすれば、財務省はメニューは固定的で、スムーズな動線や値段の安さを意識した展開をされているように感じました。一方で阪大は主な対象が学生ということもあり、メニューの豊富さや彩り、変化を重視しているように感じます。休憩時間であるはずの食堂だが、和気藹々といった印象はなく、職員の方々の荘厳な雰囲気が感じられました。
13. 毎年ランチを頂いており、その度に同じ感想を抱きますが、日本のトップクラスの頭脳と国家への忠誠心を持ち、日々国民に奉仕している官僚の方々の食環境はもう少し改善されても良いのではないかと感じました。若く優秀な人材を官僚につなぎ止めるための必要経費なのではないかと考えています。
14. 昨年、一昨年に引き続き、安価で非常においしかったです。カードで食事をする人が多いためか、券売機の数やや少ないように感じましたが、立地的に外部の人がそれほど来る場所でも無いように思われるため、慣れれば必要十分な数なのかと推察しています。

15. 前回食堂に訪れたときより、メニューの数が限定的であり少しさびしく感じましたが、とても美味しく堪能することができました。食堂内では、時間帯のせいとも分らないがひとりで食事をされている方も多く、お昼時も忙しい方が多いのかと思いました。
16. 財務省の食堂に来るのは3度目で、気のせいか以前より値段が上がっているように感じました。にぎやかな印象は相変わらずで、財務省の活気が伝わってきた。初めてラーメンを食べましたが、阪大の学食より美味しかったです。
17. 毎年 A 定食を注文している記憶がありますが、量が多いなと思いながら頑張って食べているような気がします。私は 4 月から食堂のない職場で働くので、温かいご飯を比較的安くたくさん食べられるのはうらやましいなと思います。
18. 今回で 3 回目でしたが、今回は午前の部が伸びたこともあり、食堂が例年より空いていた代わりに売り切れているメニューが多かったのが残念でした。ボリュームもあり味も美味しかったです。省庁のお昼休憩事情を知らないのも、普段官僚の方がどのようなスケジュールで過ごしているのか疑問に思いました。財務省はやはり建物に歴史を感じ、格好良かったです。
19. 食堂では A ランチをいただいた。低価格で一汁三菜が揃った料理を手軽に食べられる点は、魅力的だと感じた。職場環境については、伝統的な建物で堅苦しいという意見も聞いたが、私はむしろそれがいいと思った。国で働いているんだという気持ちになるし、おしゃれなオフィスよりも、仕事モードに入って集中できそうだと感じた。ただ、霞ヶ関全体がそんなムードであるため、霞ヶ関を離れるまではリラックスできなさそうだとは思った。
20. 財務省のランチについて、定食の種類も豊富にあり、味に関しても、大変美味しかったです。また、ランチ中の職員の方の印象としては、わいわいがやがやというよりは静かに落ち着いて話している職員の方が多くいらっやったと感じました。

4.2 こども家庭庁 成育局成育環境課 居場所づくり係でのプレゼン

こども家庭庁 成育局成育環境課 居場所づくり係への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：(「自分で発表してみよう」および「他班の発表を聞いて」の視点で)

1. 学習機会と意欲のみで結果の良し悪しを判断していいのかというご指摘をいただいた時に、自分の中ではまずはハード面だけでなくソフト面においてもできるだけ多くの子供達のスタート地点を一緒にすることも大切という意味で学習機会と意欲は指標になり得るのではないかと感じました。しかし同時にやはり人を扱う政策は一人一人

生もその人にとっての幸せも違っているため、価値観を押し付けないように、でも政策から漏れる人がいないように政策を考える難しさを再認識しました。

2. こども家庭庁での政策提言発表では、属人的なテーマの難しさを改めて認識した。なぜ相対的貧困に目をつけたのか、などと問われるとやはり回答するのが難しくなるし、数値として表せないのが客観的に表現するのも苦労したのだなと感じた。実際に、どの班よりも質問が多かったように感じた。難しいテーマではあるが、議論と研究を必要とする分野なので果敢に挑戦した先輩方に感銘した。



3. 新しくできた庁であることからか、職員の方の雰囲気は活発で意欲的に感じられた。会議室の壁に子どもの絵が飾られていることから、職員の方の熱意が感じられた。職員の方のコメントは実体験や現場の状況を鑑みたものが多かった。私たちの発表は一定評価していただいている様子で、提言に根本的な齟齬はなかったようではあったが、それでも私たちの考えた提言と現場担当者である職員の考えの間には“差”が感じられた。一つの同じ言葉からも、私たちよりもはるかに多くの事例を考えていることが想像できたし、その差が提言の説得力の違いとなっているのだと感じられた。
4. こども家庭庁では民間からきた官僚の方もいてさまざまな意見をおっしゃっていた。すごく褒めてくれる人もいれば、現実的な厳しさを教えてくれる人もいた。福田班はこども家庭庁が今まさに取り組んでいることを政策提言していたので、こども家庭庁の方も答えられるかわからない質問が飛んできていた。3年生のりおさんがうまく返していたと思った。
5. プレゼンの後のディスカッションでたくさん意見交換できたのが印象に残っています。おっしゃっていたことに対して、私たちの論文に対する思いや論理を紐づけてわかりやすくお伝えすることができたような気がします。それでも、まだまだ至らない点が沢山あり、深めることができる点についてもご指摘いただけたので、とてもありがたかったです。こどもの貧困や教育格差、居場所について問題意識を私たちよりも持たれて、

実際に行動されている方からの良いフィードバックやアドバイスはとても参考になりました。議論を経て、自分の意見を簡潔に伝えるにはどうすれば良いのかということについても少し学べたような気がします。総じて、1年間頑張ってきてよかったな、想いが伝わってよかったなと思いました。

6. 発表後の講評を聞いている中で、論文全体としての「筋書き」が首尾一貫して説得力のあるものでないといけないということを改めて認識しました。また、貧困という社会課題に対するアプローチも様々ある中で、なぜ「教育格差」に着目したのかや、その教育格差をどのような指標を用いて表現するのかなど、一挙手一投足すべてに納得性のある精緻な議論が必要なのだと感じました。
7. こども家庭庁は創設されてからかなり日が浅いためか、かなりオフィスがきれいだなという印象でした。働かれている方からのフィードバックも、かなり熱意を持って普段の仕事に取り組まれているからこそその意見だと感じられ、今後の日本社会はこどものためにもより良くなっていくだろうと感じられました。ありがとうございました。
8. お話を伺って、子どもの貧困対策の必要性と、一筋縄ではいかない現実の難しさ、複雑さを感じました。特に印象に残っているのは、「教育格差解消には必ずしも学習機会×学習意欲という方程式は成り立たない」というお話です。今回の発表では子供の居場所づくりにフォーカスをしていましたが、たしかにその両親のケアや居場所を出たその後の子どものケアまで考えられたらよりよい提言になると感じました。それだけ子どもの居場所づくりは単純とは非なるもので、きめ細やかに政策が設計されているのだと理解することができました。ありがとうございました。
9. 論文大会では学術的な観点から厳しい指摘をいただくことが多かったが、今回は現場において実用性があるのか、今ある資源とどこまで互換性のある取り組みなのかという、政策を考える実行段階の厳しい指摘をたくさんいただいた。中間支援団体をメインで活用するならば、実際の団体へヒアリングするべきだという指摘はもっともで、もう少し頑張れた点であると感じました。様々な要素からこどもの成長は形成され、何ををもってよしとするのかも曖昧であるため定量的な分析が難しく、選んだテーマの難しさを改めて自覚しました。一方、難しい問題についてたくさん考え、ある程度厳しい質問にも時間をおかずに回答できたことは、1年間頑張ってきた結果だと素直に喜びたい。
10. 子供の居場所を作るという論点に着目したことに関心されていたこと、また提言をしようとしているフィールドの詳しい定義を求められていたことが印象的でした。職員の方々と学生の間で、質疑応答を通じて活発な議論が行われており、子どもたちが育つための環境の改善に全力で取り組まれていることを感じました。
11. 着眼点を高く評価されていたことが印象的である。特に、こどもの教育格差を解消するために、ただ補助金を出すという発想になるのではなく、「こどもの居場所をつくる」という、問題の原因となっているサイクルの根本に注目できていることが素晴らしいと感じました。また、去年実際に「こどもの居場所」に着目した政策を行っていたとい

うことをお聞きし、この班は担当者の方々の目線に立って論文を執筆することができていたのだと感じました。

12. まず、こども家庭庁のオフィスについて、いい意味で「官庁っぽさ」がなかったのが印象的だった。ビル自体も新しいからか、企業のオフィスのようにフレッシュで綺麗でした。また、壁に掲示された（おそらくこどもたちが描いた）イラストもこども家庭庁らしさが表れていて良い印象を受けました。また、議論に関しては、「本当に学習意欲を改善すれば解決されるのか」というトピックが印象的でした。私たちの論文はできるかぎり論を狭く深く研究する節もあるので致し方ない部分もありそうですが、子どもの教育格差という問題の奥深さを改めて感じることができました。
13. 他班の発表を聞いた立場での感想となりますが、こども家庭庁は新しい省庁であることも相まって、非常に穏やかかつぎっくばらんな意見交換ができていた印象です。発表班の3年生もリラックスして質疑応答ができており、とても有意義な時間になっただろうと感じました。
14. 最近出来た庁であるため、どのような議論がなされるのかに非常に興味を持っていましたが、論文の内容だけにはとどまらない、実社会を見た上での視点からお話を頂き、改めて考えさせられることが多くありました。「貧困」という非常にソフトで、明確な数字を持って表しづらいテーマであり、かつ個別に事情が違うことも多く、職員の方の話を伺えば伺うほど、取り組み方が難しい問題であると感じました。ただ、今の社会の根底にある大きな問題ではあるため、何かしら考えながら生きていこうと思います。
15. 実際にこどもの居場所を運営されていた担当者からの、教育格差の定義の確認の質問、および大学進学を目標にするべきなのかといった質問がかなり印象に残っています。あらゆる教育の機会をすべての子どもに提供することは、将来のあらゆる選択肢や機会を増やすために必要であると思いますが、それが学歴至上主義的な社会を助長することにつながりかねないのかもしれないとも思いました。改めて、政策を考えることの難しさ、また関係する人やあらゆる考えを持った人に納得していただくことの難しさも感じました。
16. テーマが今ホットなもので、今まさに議論されているからこそ厳しい意見や、自分たちに欠けていた視点がみつきり、非常に有意義な議論だったと感じました。中間支援団体の深掘が足りていないのはもっともで、そこを軸にした政策提言を行う上ではヒアリングなどを行い、長所短所を分析するべきでした。そこが曖昧だったために論文大会などで発表が伝わりにくかった部分があるのだと感じました。また、中間支援団体の中でも期待した役割をこなせないものも多く、それらを育成または同時に成長できるような仕組みが必要という意見をいただき、なるほどと思いました。自分たちは中間支援団体という曖昧なものに頼りすぎていたのだ感じました。
17. 福田班のみんながテーマに対して熱い思いを持っているように、担当してくださった方々も並々ならぬ思いで仕事に取り組まれているのが印象的でした。誰かを支援する

ことは自分の言動の結果が目に見えてわかることであり、また解決しなかったときにはとても悔しい思いをすることなのだと思います。

18. 3年生とこども家庭庁の方が活発に意見を交わし合っている姿に感銘を受けました。3年生の3人が子供の貧困と教育というテーマに対し、非常に熱量を持って取り組んでいた証だと感じました。もちろん現場の方から見たら抜けている視点は多々あったと思いますが、すごく素敵な議論だと思いながら聴いていました。
19. 職員の方から、「中間支援団体の情報が少ないという」指摘をいただき、自分自身が中間支援団体の具体的なイメージを抱けていないことに気付かされました。中間支援団体にも規模の大小などさまざまな違いがあることをイメージできていませんでした。確かにそのようなバリエーションがあると思っている状態で政策提言を聞くと違和感を覚えるなと感じました。政策を考えるだけでなく、実行する段階にも携わっている職員の方々の意見は、私たちよりもはるかに現場の視点を汲み取っていて、大変勉強になりました。また、論文を作る上で、政策実行に携わる方々へのヒアリングの重要性を再確認しました。
20. 校長OBやOGを用いて、子供の居場所づくりをするという政策に対して、実際に行うためには、学校の役割との区別をしっかりとしなければならないということに対して、政策を行う上での障壁となる部分がかかなり多くあるのだなと感じました。また、大学に進学することがゴールになっているような気がするという指摘を受けて、それぞれの子どもにとってゴールが違うという前提を再認識させていただきました。

4.3 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室でのプレゼン

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：（「自分で発表してみても」または「他班の発表を聞いて」の視点で）

1. 厚生労働省の職員の方のご指摘の中で、業務改善アドバイザーの導入等に意欲的な事業所はそもそも離職率が低いのではないかというものがありました。離職率が低ければ業務改善のための業務の切り分けも行うことができ、一方でこれの当てはまらない意欲的でない事業所は永遠に負のループからの抜け出せないのではないかと感じました。
2. 介護班の政策提言発表で一番印象に残っているのは、「全体的に生産年齢人口が減っていくなかで介護に携わる人材にそれほどの人数を割いてよいのか」という趣旨のフィードバックだ。これに対して私は、最適解を見つけるのは非常に困難で、どの分野は最低限どのくらいの人材が必要か、どこまで機械化で代替できるか、全分野・業界で腹を

割って議論し、その結果、望ましいとされる配分に近づくことができるような政策づくりも必要だと感じました。

3. 職員の方の様子は落ち着いた様子で、実直さが感じられた。職員の方のコメントでは、人口減少という大局的かつ絶対的な問題のなかで、それぞれの課題をどのように解決していかなければならないかということについての大変さが実感できました。職員の方の話し方から、その危機感と悲壮感がひしひしと伝わってきました。



4. 厚生労働省では自分たちの班が発表しました。さまざまな指摘を頂いたが、特に印象に残っているのは介護士の必要数と予測数の差を埋めることについての議論である。日本全体の人口が減っていく中で、介護士の数を増やすことは困難であり、IT やロボットの活用も今後必要になると話されていた。たしかに至極当然のことではあるのだが、自分たちが政策提言を考えると自分たちの都合しか見えなくなってくるので、たくさんの政策を司っている方々だから言える指摘だと感じた。中にはとても共感してくれている政策もあり全ての政策が井の中の蛙なわけではないことが感じられた。
5. 発表後の質疑応答および、議論の際に厚生労働省の担当の方から、今回の発表内容をぜひ今後の政策の参考にさせていただきますといった旨の言葉をおっしゃっていたので、私たちの考えたことが本当に省庁の方に届いているんだなという実感が持てました。介護士不足の厳しさについては、何度もおっしゃっていたので高齢社会とそれにおける問題は、本当に深刻であるということが再認識できました。
6. 着目した社会課題が、だれでもとっかかりやすいテーマである一方で、その問題を詳細に現状分析すると、意外と専門的な表現やシステムが多くなり、特に現行施策と今回提言した政策の違いやその必要性といった部分で、実際の政策立案担当者の方々への伝わりにくさが残ってしまっていたのではないかと感じました。
7. この度はこのような素敵な機会を提供してくださり、また研究中のヒアリング調査にも寛大にご対応してくださり誠にありがとうございました。私の祖父が介護されるよ

うになって以来かなり興味を持っていた介護分野に関する研究を進められてとても嬉しく思います。研究中には介護士不足の分野は慢性的な課題であり、解決のためには1つの政策ではなく複数の政策を同時に進めてスピード感を持たなければ完全な解決には結びつかないのではないかと強く感じました。今回の政策提言も他の政策を進めるうえでの前提のような位置づけだったため、正直自分自身でもさらに個別の課題（賃金・外国人労働者など）に対して具体化された政策を打つことが必要だと考えますが、そこまで考えてお伝えすることができなかつたのが少し残念でした。1年間の研究としては終了してしまっていますが、今後も個人的に引き続き勉強を重ねていきたいです。

8. お話を伺って、改めて2040年に迎える280万人という介護士不足の深刻さを感じました。単純に外国人労働者を受け入れたり人手を増やすといった方向性にしなかつたことは論文の上でもこだわった部分だったので、そこに理解を示してくださり励みになりました。その一方で、やはり介護助手という制度を全国に展開していくにあたって他の業界も苦しい中、果たして提言内容の人とお金を投入するべきなのか、あるいはできるのかといった点は今後の検討課題だと感じました。「介護業界」は日本特有のものであること、それを業界として切り離すというチャレンジングな領域にいるというお話は非常に勉強になりました。日本が今後深刻な人手不足と向き合うことで、介護に悩む他国でも活路を見出すきっかけとなるかもしれません。介護という複雑な領域に日々取り組まれている厚生労働省の方々に改めて敬意を表しますとともに、これまで1年間多方面で協力いただきましたこと、班員一同感謝申し上げます。ありがとうございました。
9. 実際に、どのように介護人材を増やしていくかは現場でも非常に頭を悩ませているところで、機能分化というたたき台を出した上で、裾野を広げていく提言は、省庁の方に非常に好印象だったように感じました。一方、質疑応答に班全体で参加している意識が見られなかつたため、もう少し積極的な議論ができればいいなと感じた。
10. 昨年よりヒアリング調査等にご協力いただき本当にありがとうございました。私共も一番の問題意識として280万人という介護の担い手不足を挙げていた中で、厚生労働省の方も容易に解決することのできない課題として取り組まれていることを感じました。私たちの提言に対しても、それによって確保できる人員数まで明らかにすることができれば予算配分まで考慮に入れることができ、現実的な可能性が高まるとアドバイスを頂き、非常に参考になりました。介護業界が日本独自のものであるというお話も印象的でした。世界的にも少子高齢化が進行している日本であるからこそだと感じましたが、先の見通しを立てることも容易ではない中で、今後も分析と議論、実行を重ねていく必要があると感じました。
11. 政策提言に関して、既存のプラットフォームを使うのではなく、新たな政策を提言する意味を考えるべきだというお話が印象に残っている。政策提言を行う際は、予算を決定する担当者の方々を説得するのはもちろん、税金を負担する国民を納得させる必要が

ある。そのためには、なぜ現状のシステムでは不十分なのか、新たな政策がどのようにして私たちに利益をもたらすのかということを明白にする必要があると感じました。

12. 介護士不足、という問題に対して、現場の職員の方々も本当に頭を抱えていらっしやることが伝わってきました。本当に深刻な問題なのだということが、内側から認識できたような気がしました。だからこそ、提言に関して予算はどこから捻出するのか、各主体はどのようなやり方をするのかなど、ジブンゴトと捉えた鋭い議論が行き交っているのが印象的でした。
13. 他班の発表を聞いた立場での感想となりますが、現状分析や政策提言を真っ正面から受け止めて下さっていた印象を受けました。特に現状分析を高く評価して下さっていたようで、赤井ゼミが毎年緻密な現状分析を行なってきた伝統が受け継がれていることを実感しました。
14. 行政としては、人材派遣会社を使うよりも、既存のハローワークをどう活用していくのか（既存のハローワークではダメなのか）という議論は、これまでゼミや大会での議論ではなかった視点であり興味深く感じました。行政の立場的にはその通りであると思うが、そこに踏み込むのであればハローワークの実態（一般的に民間よりも評判が悪い）等にまで踏み込んで考える必要があると感じました。
15. 今世間で活発に議論されていることとしては、減っていく介護人材の代替として介護ロボット等を取り入れるといったことであるということが分かったが、あえて機能分化に着目して、限りある人材をどう活用するかといったことを定量的に分析した藤原班の論文の社会的意義を、担当者の方のお話を通じて再確認できました。また、医療費のあり方についても少し教えていただき、たくさんの高齢者が病院に行く今の世の中において、だれがどれだけ医療費を負担するべきか、今後もしっかり議論していく必要があると感じました。
16. 論文で扱った内容を日ごろから議論されておられ、特に解決の難しい問題だからこそ、似た苦労があるのだろうかと感じさせる話し方だったと思います。。また、介護は、超高齢化社会と言われる日本だからこそある産業だと知り、産業である以上やはり賃金をいかに上昇させるかが重要だと感じた。
17. 介護産業は日本にしか存在しないことを初めて聞いて、とても驚きました。それをきっかけに少し調べたところ、海外にも介護サービスはあるものの在宅ケアが中心であり、それが日本のように大きなインフラを持った介護施設、介護業界が存在しない理由であると理解しました。どの分野においても、今の構造を維持したまま課題をどのように解決すべきかという考えがとられるのが一般的ですが、高齢者の医療や介護など社会保障の大きな問題を抱える現在、構造転換に踏み切るべきだと改めて実感しました。
18. 2040年の介護士の予想必要数をどう賄おうか厚労省の方も苦戦しているとおっしゃっていたのが印象に残っています。今回のゼミ生の発表では研究をより深めるために離職率低下についての提言のみでしたが、議論を聞いていて、現場の方はそうとはいか

ず、本当に多様な面から打開策を練っていく必要があり、非常に難しいテーマだということ再認識しました。

19. 介護現場の人材不足に対して、学生は取り組んできたが、国の方々も同じ課題感を感じていた。しかし、異なる点は、国の方々の方が、圧倒的に現場を知っているという点だと感じました。私たちは、介護の現場に足を運んだことはないが、国の方々には現場を知っていて、私たちの政策を実行する上での課題がクリアに見えるように思われました。
20. 自分たちの班の発表を通して、厚生労働省の担当の方も、実際に限りある労働力の中でどのように、介護人材を確保していくかは喫緊の課題であると認識していると話していらっしやって、自らの班が抱いていた問題意識に相違点はなかったと再認識いたしました。また、外国人労働者を単に増やすのではなく、介護助手という点に着目してくれて嬉しかったというコメントを聞いて、実際に外国人労働者を増やすとなると法律の改正や語学の補助など様々な観点からなかなか難しいのだろうと想像を膨らませていました。

4.4 国土交通省航空局 航空ネットワーク企画課 空港経営改革推進室でのプレゼン

国土交通省航空局 航空ネットワーク企画課 空港経営改革推進室への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：（「自分で発表してみて」または「他班の発表を聞いて」の視点で）

1. 自分自身、コンセッションはハード面の設備が整っており、「民間企業への利益貢献が実現可能な空港で行われる」というイメージがあったので、国土交通省の職員の方のソフト面からのアピールで中規模空港でも可能というお話を伺い、コンセッションや空港運営への展望を感じました。
2. 空港班の政策提言ツアーでは、他の班と比べ、数値について言及される点が多かったように感じる。他班と比べ、属人的な領域から離れていたのも特に財務省でも国土交通省でも定量分析の部分に関するフィードバックが多いように感じた。分析 1 の国際線路線ダミーがマイナスになっていることの話になった時、小規模空港が個別に国際線を作ったがコスパが追い付いていないとおっしゃっていて、政策立案側の理想と各々が目指す場所の違いを埋めるのは難しいと感じました。属人的ではないテーマではあるが、やはり誰かの考えのもとで動く世界である以上は完璧な理論化というのは難しいが、そこに挑戦していかなければいけないのだと再確認しました。



3. 発表に際し関係資料などを準備している方が多く、堅実さを感じられました。職員の方との議論の中で、日本全体の空港運営という大局的な視点を感じました。儲かる空港と赤字の空港、都市の空港と地方の空港についてそれぞれの状況や特色を個別的に見ながら、全体としてよりよい施策は何かを考えることが必要であると感じられました。

4. 国土交通省では空港のコンセッションの話が議論されましたが、やはりコロナによって大きなブレーキがかかったと、国交省の担当者の方もおっしゃっていて、コロナが与えたインパクトは甚大なものだったのだなと気づきました。また、これは財務省の方で出ている意見ですが、コンセッションできるところはしてしまって、もうコンセッションの時代は終わったのではないかという意見はとても興味深かく感じました。コンセッションというまだ比較的新しいものをもう時代遅れだと指摘する眼が合っているかどうかはわからないが、多面的な視点で、政策立案していくことが大事だと感じました。
5. 私は、航空に関する知識がほとんどなく、北條班の発表から得た知識しか持ち合わせていませんが、発表を聞いた上でさらにその内容を膨らませるようなアドバイスがたくさんあったように感じました。また、実際のコンセッションの厳しさ(すでに可能なところは導入済み)についても、省庁の方から直接お話を聞くことで、現実性と具体性を感じるとともに、この問題の解決の難しさというものを改めて感じました。
6. 空港コンセッションに関して、着目した課題感に関しては深く同意して頂き、改めて自分たちが進めてきた研究の方向性が間違っていなかったのだと確認できました。その一方で、全体的に政策提言の詳細なフレームや内容などを詰め切れていなかった部分が多く、航空局の方々のコメントを伺う中で、ふわっとした提言に落ち着いていたのかもしれないと感じました。政策立案を実際に行う際には、テクニカルな部分も多く、学生が政策を提言する場合は、ある程度学生らしい柔軟なアイデアを盛り込んでみることも重要なかもしれないと感じました。
7. 今回のコンセッションの政策提言は現在日本でかなりホットになっているテーマなので、その専門家である方々の意見を生で聞けたのはとても貴重でした。コンセッション自体相当な額の案件になり、赤字が続いている、つまり経営の改善が難しい空港にいかにも民間を参入させるかというのとはとても難しいです。やはり官僚の方々もそこで頭を悩ませていらっしゃったようで、コンセッションの難しさを再認識できました。
8. 実際に日々取り組まれている方のお話を伺うことで、コンセッションの効率性と現実の難しさを感じました。たしかに今はコンセッションのような制度で効率化を進めていくべき時代ですが、実際のところ、空港を買う民間企業はなかなか赤字空港を買わないというのが難しいポイントだと思います。お話にあった「ハブアンドスポーク」の考え方など、空港の新しい使い方を考えながら経営効率化を進めていくことが重要であると理解できました。ありがとうございました。
9. コンセッションを提言する上で、実際にコンセッションに取り組んでいる空港の関係者にヒアリングを行い、実態を明らかにできている点が非常に刺さっていたように感じました。できるところはやってしまっているという意見はもっともだと感じ、今後、いかに民間を呼び込むかは非常に難しいなと改めて感じました。

10. 議論を聞いている中で、コンセッションという制度はその官民連携を伴うという性質上、各所との緻密な連携と調整が求められるのだということを改めて感じました。また、一口に空港と言ってもその規模感や土地関係といった面で多様であり、民間に売却するとしても利潤が望めない赤字の空港では買い手が付きづらいといった現実的な視点からの指摘も印象的でした。
11. 国際路線ダミーが負に有意となった原因に関して、空港ごとに事情が異なるのではないかとご指摘を受け、大変勉強になった。たしかに、地域によっては国際路線を所有していてもコストパフォーマンスの面で非効率的である場合もあれば、そうではない場合もある。そのため、地域の実情に合わせた分析ができていれば、より有意義な提言になったのではないかと感じた。また、私たちは南紀白浜空港のような赤字空港を先行事例としてコンセッションを促進しようとしていたが、国民にとっては、「空港を赤字のまま売却」という言葉は聞こえが悪いというお話が印象に残った。私たちは、交付金を返済させる仕組みを作ることで実現可能性の面をクリアしたつもりでいたが、実際に政策を考えられている担当者の方は、国民にどのように発表するかということまで考慮されていることを知り、まだまだ改善の余地があると感じました。
12. 一番印象的だったのは、「ハブアンドスポーク」の考え方である。我々の研究では、国と自治体間の情報共有について「縦」と「横」でしか捉えられていなかったことに気づきました。また、定量分析についても、基準値の変化、相対的な効率性の変化についてご意見を頂戴しました。12月に参加した論文大会とは視点の異なるコメントをいただき、効率性変化の捉え方について大変勉強になりました。専門家の視点ならではのご意見をいただけた一方で、「コンセッションをどうポジティブに波及させていくか」「推進にあたっての障壁をどのように取り除いていくか」というような課題感については我々と職員の方々と合致する部分も多く、今後も密度の濃い議論が繰り広げられていく中でこれらがどう解決されていくのか楽しみにになりました。
13. 自分で発表してみても感想となりますが、コンセッションという手法はその複雑さから様々な行政組織が入り交じるシステムとなっており、そこに実務担当者の方々の難しさを感じていらっしゃるようにお見受けしたと共に、そうした垣根に縛られない自由な政策提言は学生ならではのものだと思うので、1年間しっかり研究を重ねてきた成果物を第一線の実務担当者に提示できる機会は非常に有意義な時間だと感じました。
14. 空港のコンセッションが行われ始めたのが最近であること、またコロナ禍と時期が被ってしまったことから、空港コンセッションそれ自体にマイナスのイメージが出来てしまっているという現状を知ることが出来、大変勉強になりました。
15. 政策提言 2 を通じて、自治体に交付金を交付し収支改善額の一定割合を返済させるという提言を行ったが、国として自治体にできる様々なお金のサポート方法（無利子貸付等）を担当の方から学ぶことができました。また、政策提言 1 で自治体間のノウハウの横展開を提言したが、担当者の方がハブアンドスポーク型の情報共有をしている、国

交省がそのハブとしての役割を担っているということをお話されており、少し自分たちの認識が浅い部分もあったように感じました。とはいえ、横展開を通じて効率よく情報共有をすることのメリット（南紀白浜空港の岡田社長もおっしゃっていた県同士の協力を通じた観光客の誘致など）も一定あると改めて感じました。

16. コンセッションが何度も行われてきた中で残ったのは買い手のない赤字空港で、自治体がお金を払ってでもコンセッションを行う形が、今後の方向性としてあるのだと知りました。
17. コンセッションの意義について改めて考えました。儲かる空港は民間に任せる必要がないし、儲かる見込みがない空港は受け入れてくれる民間がないということになり、コンセッションの対象は「工夫次第でもっと儲かる可能性がある」いくつかの空港に限られる。今後の空港経営は、より根本的な解決策が求められると思います。
18. お忙しい中沢山の職員の方に発表を聞いていただけて大変有難かったです。私は提言パートの発表担当だったので、財務省の時と同様、内容を理解できる速度、強調したい内容はよりはっきり話す、など発表において工夫しました。発表内容に関して、大会本番でも指摘をいただいていた交付金の返済に関しては、やはり、といった内容のご指摘をいただきました。実務だったらどのような枠組みにするのかお聞きでき、勉強になりました。「この提言を上にあげるときどのような点をさらに詰めないといけないのか」といった観点でフィードバックをいただけたので興味深かったです。
19. 政策提言は3つともオーソドックスなもので、自分たちのやりたいことを伝えることはできていたように感じましたが、それに至るまでの分析に鋭い指摘をいただけたと感じました。変数の設定理由については、論文執筆が進んでいくごとに、自分たちの欲しい結果が得られるように設定していく傾向があるため、問題意識とのずれが生じ、違和感を感じさせるものになってしまったように思えました。この点は、今後注意していきたいと思いました。
20. 空港コンセッションに関して、すでにある程度できるところは終わっているという認識や赤字経営の空港をどのように民間に買ってもらうのかを考えるのが大変難しいという実情をお伺いし、コンセッションの難しさを改めて感じました。今後は、北海道のようにいくつかの空港をまとめて民間に渡すなど、様々な工夫が必要だと感じました。

4.5 今回の政策提言ツアー全体への感想および、実際の政策決定を行う担当者との意

見交換の場（中央省庁、地方自治体、その他）やそのあり方についての意見・希望

1. 実際に政策を考える立場の方々から貴重な意見をいただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。来年は今回いただいたご意見なども参考にして論文執筆に取り組みたいと思います。
2. 忙しい時間の合間を縫って、学生の意見に真摯に向かって頂いているということ自体良い刺激・経験になりました。来年の論文作成への良いモチベーションとなりました。
3. どの省庁の方の意見も、現場に根差した意見であることは勿論として、「日本全体としてどのような政策をとるべきなのか」という視点が共通しており、印象的だった。私たちが提言を考える際、どうしても個別的な一つの問題についての対策を考えてしまうが、より説得力のある提言をするためには大局的な視点も必要であると感じました。議論をするなかで職員の方々の思いや熱意が感じられ、国家公務員という職について、具体的なイメージを持って知ることができました。今回頂いた指摘を踏まえ、来年度の提言をより説得力のあるものにしたいと思います。
4. この政策提言ツアーでは本当に学生ではできないような経験をさせてもらいました。今回の政策提言ツアー全体で感じたことは私たちの目標である政策提言コンテストでの優勝と官庁の方の評価が必ずしも一致しないのではないかとという点です。今年は優勝できませんでしたが、さまざまな場面で褒めていただけることもあり、その逆も然りだと思えます。なかなか万人受けする政策を立案するのは難しい一方、論理的に話を進めることで相手を納得させることができるため、来年はそこを意識していきたいと思えます。また、来年も自分たちの政策を提言する機会をいただけると嬉しいです。
5. 自分たちが1年間かけて頑張ってきたことをこのような形で発表し、そして議論できる環境がどれだけ貴重でありがたいことであるのかがよくわかった1日でした。また、実際に最前線で活躍される方からの直接のフィードバックから、自分たちがやってきたことは決して間違っていないんだ、今後の日本社会の未来のために必要なことであつたんだということがよくわかり、単純にとっても嬉しかったです。今回の議論や発表を経て、自分自身の理解や考えがさらに深まりました。今回の私たちの訪問及び発表が、省庁の方々にとって微力でありながらも小さな刺激や気づきの機会になっていれば、嬉しいと思えました。最後に、赤井先生、このような貴重な機会を設けてくださり、誠にありがとうございました。
6. このような貴重な機会を、できれば論文執筆中に一度でも経験できると、また論文執筆に深みが出るのかもしれないと感じました。今回頂いた貴重な意見を今後、なにかしらの場面で活かしたいと思えます。
7. 私は、コンパクトシティと地方創生という反対の性質を多く持つ政策をいかにしてバランス感を保ちながら進めていくのかについて興味があるため、そういったことを取りまとめている中央省庁や地方自治体のお話を聞きたいと思えます。特にTSMCの進出により不動産バブルが発生している、ある種地方創生が進んでいると言える熊本の自治体の話を聞いてみたいです。

8. まずは赤井先生、このような機会を毎年アレンジしていただき本当にありがとうございます。そして職員の方々もお忙しい中、学生の論文発表にお付き合いいただき誠にありがとうございました。論文を書いて終わり、発表して終わり、ではないことで自分が1年間取り組んできたことの励みになりました。また、実際に業務にあたられている方だからこそのご指摘もいただけたことで非常に勉強になりましたし、また更に自分の論文をブラッシュアップできる機会になりました。学んだことを今後を活かし、後輩にも伝えていきたいと思います。この度は誠にありがとうございました。
9. 自分たちが考えた提言に対して、実行する側の視点からフィードバックをもらえる貴重な機会は、普通の学生にはできない経験であり、非常に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。これはずるになってしまうかもしれませんが、提言を作成する段階から少しずつフィードバックをもらえる機会をいただけたら、1年という短い期間でもよりよい提言を作れる可能性を感じました。
10. 論文執筆の最終発表の場として、提言先として設定していた方々に発表を聞いていただき、実地でその問題に関わっておられる方であるからこそ見える視点からの現実的なご指摘を頂けるのは非常に貴重な経験でありました。通常の生活では聞けない、日本を動かしている方々がどのような思考と観点を持って日頃国の課題に取り組まれているかといったお話やコメントもお伺いすることができ、私自身の社会を見る目が変わったように感じました。ありがとうございました。
11. やはり、毎年の論文執筆活動の集大成として、担当者との意見交流の場を設けていただけるのは非常に有意義だと感じました。自分たちの論文がどこまで通用するのかということを知る場であると同時に、担当者の方々の高い視座から多くのことを学ばせていただける場であると感じます。担当者の方からは、論文に対する感想に加え、改善に向けた質問もいただきました。意見交流を深め、より有意義な議論ができると良いと感じました。
12. 実際に政策を決定し予算を編成している方々は、私たちの考えの遥か先まで見据えていらっしゃることを改めて認識しました。その点においては、我々学生にはどうしても太刀打ちできないものもあと思いました。一方で学生の中からこのように問題を分析し政策を考え、実際にアウトプットするという機会も非常に学びの多い重要な機会であると感じました。また、実際、現場で問題と向き合っているにもかかわらず（その問題を熟知し、我々には到底及ばない視座をお持ちであるにもかかわらず）職員の方々は我々の発表に耳を傾け、真摯にコメントや議論を投げかけてくださったことに感激しました。
13. 政策提言ツアー全体を通して、官僚の方々がどのような観点に重きを置いて提言を聞いて下さっているかを実感しました。また、班の発表時、残りの班のメンバーが積極性を失わないように、その場に同席する意義をより実感してもらうことが大事だと思いました。

14. 実際に日々政策について考えている方々に直接発表する機会を持てることは本当に貴重であり、毎年新しい知見を得られるため、非常に良い勉強になりました。実践的な（実現させるためにはどうすればよいか）という点からフィードバックを頂けることが多いため、その点を次の年の執筆やサポートに活かしてほしい。
15. どの省の方も口を揃えて、今後とにかく人が足りなくなるということをおっしゃっていたように感じました。限りある人材をどの分野に割くべきかは、一つの省だけで決して考えてはいけない、考えられない問題であり今後より省庁横断的に議論すべき必要性を感じました。今回は、都合上昨年度のような霞が関の方とフランクに話すことができる食事会のようなものがありませんでしたが、あのような機会は学生にとって自分の将来のことや霞が関のことについてざっくばらんに質問できる機会であるので、今後、また設定していただけると良いと感じました。
16. 学生では得られない知見であったり、最先端の情報が得られる、また議論できるという点で論文執筆のしめくくりとして非常にありがたい企画だと改めて感じました。全体的に時間が押すので発表をどうにか削って質疑応答が長くできるといいかもしれないと思います。
17. 去年自分の研究を進めている中で「もうどうやっても解決できんやん〜〜〜」と思って諦めなくなったことが何回もあったので、省庁で毎日そんな仕事に取り組んでいる人たちは本当にすごいなと思います。ついつい、「数年で別の部署やし今の自分が必死こいてやらんでもええか」と問題が先送りにされてしまう気もするので、そうならないような仕組みがあるのかなと思いました。
18. 4年生としてではありますが、1年間同じ班、違う班に関わらず見てきたので、提言ツアーまで見届けられて良かったです。今年度も、私たちのテーマに合わせて各省庁の担当の方をアレンジしていただきありがとうございました。毎年どうしても論文を完成させることが先行してしまい現場の声を聞き切れていないので、官僚の方と意見交換する場があることで、私たちが考えた提言を実際に現場に持っていくとどんな弊害があるのか、どのような視点、要素が足りていないのか学ぶ場になり、今年の提言ツアーも楽しかったです。
19. 自分たちが課題に対して研究してきたことに対し、担当者の方に「よく勉強しているね」と言っていただけると、ゼロの状態からここまでやってきたんだという達成感を感じられうれしかったです。時間の制約はありますが、財務省でのプレゼンのように、各省庁の方からみた日本の現状に対するプレゼンもあれば、より勉強になるのではと感じました。
20. 自分たちが一年心血を注いだ論文を実際に政策を立案する方々に提案することができ、大変貴重な機会となりました。自分達が至らなかった部分や新たな視点からの指摘を得ることができ大変勉強になりました。また、国を背負って働いていらっしやる

官僚の方々を間近で拝見し、来月からの社会人生活を頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。

4.6 阪大(東京) オフィスの印象

1. 東京オフィスは存在を知っているだけでしたが、飲食可能なスペースや会議室、印刷機など様々な設備が整っており、就活の際に活用したいと感じました。
2. 存在自体も、阪大生もしくは卒業生なら誰もが使えることを初めて知りました。就活の際に活用させていただこうと考えています。
3. これまで存在は知らず、初めて訪れました。綺麗な印象で、ちょっとした作業をするのに良い空間だと感じました。就活でも使ってみようと思います。
4. 大阪大学の東京オフィスには初めて訪問しました。あることはうっすら知っていましたが、阪大関係者なら誰でも入れることは知りませんでした。とても立地のいいところにあり、中もさまざまな用途で使える部屋があり、もし機会があれば利用してみたいです。
5. 清潔感があり、すごしやすいような環境でした。大人数の受け入れであるにも関わらず、嫌な顔ひとつせず真摯に対応してくださり、印象は良かったです。
6. 解散時のみ、そして初めて立ち寄りしましたが、想像より小さいと感じました。特に就職活動では東京に滞在する場面も多いと思うため、もう少し大々的に存在をアピールしても良いのではないかと感じました。
7. 今年度も利用させていただき誠にありがとうございました。東京にいる阪大生のためにオフィスを開放してくださっているのがとてもありがたく、私自身も今後就職活動等で困った際は活用させていただきたく思います。
8. きれいな設備で非常に快適に使わせていただきました。実際のところ普段はどのような方が使われているのか気になりました。場所を使わせてくださりありがとうございました。
9. 去年に引き続き荷物を預かっていただきありがとうございました。官庁に近いところにオフィスがあることで、やり取りがしやすくなっているのかなとも少し感じました。
10. お部屋をお貸しいただきありがとうございました。大阪大学の表示やワニ博士のぬいぐるみが出迎えてくれ、東京の地で安心できる空間でありました。これからの就職活動で東京に来るときも、お邪魔してパワーを頂こうと思います。
11. 今年で2度目の訪問になりますが、オフィスの雰囲気大学に似ており、安心することができる場所だと感じました。これからも、東京で頑張る阪大生たちに活用される場であって欲しいと思います。

12. 昨年も訪問しましたが、非常に立地も良く綺麗なオフィスだと感じました。私たちの他に団体で利用されている方をお見かけしたこともあり、普段はどのような方が使われているのかが気になりました。
13. 毎年お邪魔させて頂いて、改めて立地の良さに驚くと共に、いつまでも東京に阪大オフィスを設置できるように、阪大の卒業生として頑張っていきたいと感じました。
14. 毎年変わらず非常にきれいであり、荷物を預かっていただいているため、大変感謝しております。これからも後輩をよろしく願いたします。
15. 霞が関の中心というだけでなく、丸の内や虎ノ門からも近く、非常にアクセスの良い立地だと思いました。卒業生も利用できるということなので、ぜひ利用させていただきたいと思います。
16. 初めて他の団体が利用しているのを見ました。今年もお世話になりありがとうございました。ビルの中に急に大学のオフィスがあるのが不思議でした。
17. 去年も今年も、赤井ゼミ以外の人もオフィスを利用されていたので、学生にはほとんど認知されていないものの役に立っている施設なんだなと思いました。
18. 1年ぶりだったので、建物の位置は覚えていたのですが建物に入ってどっちのエレベーターを使用するのか忘れていました。阪大東京オフィスはどのような方が活用しているのかが気になりました。
19. 奥に自習スペースがあることを今回初めて知りました。設備が充実しており、東京で活動をするときは大変便利だと感じました。担当の方も優しく接してくださいました。もう卒業してしまいますが、なにかの機会を訪れたいと思います。
20. 東京に阪大のオフィスがあり、実際に自分たちも使えると知り、驚きました。機会がありましたら、再度訪問させていただきたいと思います。

5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント

2013年度に政策提言論文の全国大会にゼミ論文をエントリーし、その成果を実際に霞ヶ関での政策担当者に見てもらいコメントをもらうという「政策提言ツアー」を開始して、今年2023年度で11年目となる。毎年、財務省をはじめ、政策に関わる担当の省庁のみなさまには、大変お忙しいところ、若い学生のチャレンジの応援という形で、お時間を作っていただいている。感謝したい。実際に政策を設計している担当者と意見交換が出来る機会があることは、論文執筆の大きなモチベーションにも、また、今後、社会・政策のあり方を考える上で、貴重な体験となる。この体験をした学生が、社会に出て、社会問題に直面したときに、民間部門であれ公的部門であれ、この経験が役に立つことがあると確信している。それでこそ、企画者および対応していただいた皆様への恩返しとなるのである。この企画の継続には、時間も苦労も多いが、学生の成長があってこそ、やりがいがある。継続は力なり。